

島根県立大学短期大学部松江キャンパス広報

# 松江キャンパス ニュース

The University of  
Shimane Junior College

2014  
vol. 7

学科関連行事

公開講座

TOPICS

特集 第40回ほいくまつり



平成25年度で40周年を迎えた「ほいくまつり」は、平成25年6月29日に、島根県民会館大ホールで開催いたしました。会場には1,700名の子どもたち、その保護者、保育関係者のご来場をいただき、保育学科学生108名全員で作上げた第40回ほいくまつりは大成功を収めることができました。

長年にわたり地域に親しまれる本活動は、学生が普段学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表します。今年は歌唱が「夢の世界」をテーマとし、影絵劇が「はなさかじいさん」を、演劇が「オオカミと七ひきの子ヤギ」を題材に舞台を作り上げ、カエルのオリジナル・キャラクターが司会進行を行いました。そして、会場入り口付近には、島根県が展開している「神々のくにしまね～古事記編纂1300年～」事業に呼応させ、出雲神話をテーマとした幼児向けアトラクションを準備し、この地域に伝わる神話を多くの子ども達に楽しんでもらいました。半年間にもおよび準備と、本番での体験を経て、学生たちは唯一無二の大きな学びを得ることができました。今回の成功は、アイデンティティとして次代の学生へと受け継がれていくことでしょう。



## 「ほいくまつり」について

### 1 すべての学生の手作りである

保育学科学生約100名全員参加で、歌唱・影絵劇・劇・ポスターペンダント・大道具・小道具・司会・音響効果・照明・衣装・記録の11のパートに分かれて取り組んでいきます。1・2年生が縦割り組織の中で、リーダーシップとフォロワーシップを学びます。なお、その全ては学生の手作りで進めています。

### 2 「子ども主体」の発表プログラム

歌唱や司会では馴染みのある歌や遊びを、影絵や劇では絵本や紙芝居等で見聞きしたことのある題材を採り上げ、子どもが普段園や家庭で経験する内容を含むよう計画しています。子どもの日常の延長上に位置づけ、舞台を見ながら自分も真似をしたり歓声をあげたりしながら参加できる内容を企画するからです。また発表内容だけでなく、企画・運営から子どもとの触れ合いまでの全過程で、子どもの視点を第一に考えています。

### 3 6月開催のインパクト

このような表現発表会は通常、学びの集大成として秋期や年度の終盤に開催されますが、ほいくまつりでは6月下旬に実施しています。これは、1年生には入学間もない時期に保育というものが持つ責任と難しさ、喜びと夢に、衝撃的に出会わせ、2年生にはこれから本格的に保育を学び、実習が深化し、就職への動機づけと自信につなげることが、その後の保育学習への強い意欲を生み出すと考えているからです。「ほいくまつり」は保育を深く学んでいくためのきっかけであり、ゴールではなく、むしろ始まりなのです。

# 「ほいくまつり」開催



## 第40回実行委員長を務めて

(保育学科2年) 荒川知佳子

私はほいくまつりを通して、一人ひとりの思いに耳を傾けること、寄り添うことの大切さを学びました。私たちが創り上げた第40回ほいくまつりには100人を超える学生一人ひとりの熱い思いが込められています。私は実行委員長として学生それぞれの思いを受け止め、みんなの思いを反映しながら私たちにしかできない「第40回ほいくまつり」を目指して活動してきました。一人ひとりの思いに耳を傾けることで、様々な気づきを得ることができ、学生一人ひとりと心を通わせながらほいくまつりを創り上げていくことができました。このほいくまつりでの学びを生かし、春からは保育士として子どもの思いや姿を認め、自主性や主体性を大切に保育を行っていきたくと思っています。そして、このほいくまつりのように他者と協力しながらひとつの物事を達成することの喜びや感動を子どもたちにも伝えていきたいと思っています。



## 伝統を受け継ぐということ

(保育学科1年) 西中明日香

私は第40回ほいくまつりを経験し、40年をかけて築き上げられた伝統の素晴らしさを実感しました。平成25年度は40回目と節目の年でしたが、私たちが40回目を行うことができたのも、これまでの先輩方がその年ごとに工夫し、よりよりほいくまつりにしようという気持ちを持って取り組まれてきたからだと思います。入学当初は、右も左も分からない状態で先輩方についていくのでやっとだった1年生も、2年生のほいくまつりに対する熱意や思いを感じる中で、自分たちもほいくまつりを創るチームの一員であるという自覚と、第40回ほいくまつりを成功させたいという気持ちを持つようになりました。これから第41回のほいくまつりを迎えるにあたり、先輩から引き継いだバトンをしっかり受け止め、これまでの伝統に、私たちの色を重ね、また新たな伝統を創り上げていきたいと思っています。

## 本学保育学科学生としてのアイデンティティ

本学科卒業生の大半が学生時代に印象に残ったこととして、「ほいくまつり」を最初に挙げます。卒業年度の違う卒業生同士であっても同窓生であることを知ると真っ先に「ほいくまつり」の話が始めるのが特徴的です。共通言語とまでいえるこの感覚は「ほいくまつり」が卒業生の心にいかに深く存在しているかを物語るもので、「ほいくまつり」は、本学学生、卒業生そして教員、大学にとっての誇りといえます。

また、40年の歴史がありますので、幼い日に「ほいくまつり」の観客だった人が、父・母となり我が子と一緒に見に来るといった例も多いのです。さらに、「ほいくまつり」に取り組んだ学生の二世が「ほいくまつり」に取り組んでいるという例も出てきています。加えて、保育者を目指す県内高校生には広く知れわたっており、中・高校生が保育、教育という将来の夢に出会う場にもなるなど、地域における認知性、定着性のとても高い取り組みなのです。



## 健康栄養学科の取り組み –Science Partnership Program (SPP) の実施–

健康栄養学科では、平成25年度「サイエンス・パートナーシップ・プログラム(以下SPP)」に「美味しさと健康のサイエンス」が採択され、地元の中学校と連携してサイエンス体験学習を実施しました。SPPとは、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の助成事業で、学校と大学などが連携して行う科学技術、理科、数学に関する実験、実習等の学習活動を支援するものです。

テーマは『食・美味しさ・健康』とし、3日間連続で「講義と実験」と「調理と喫食」の内容を盛り込んだ参加型のプログラムを企画しました。目的は、この体験学習を通じて、理科系志向をもつ生徒さんはもちろん、理科系には興味がない人にも、自分の身近な事柄を科学的に探究していく面白さを知り、それを自身の健康づくりにつなげていくきっかけにしてもらうことです。

日程は平成25年8月5日(月)～7日(水)の各日4時間で、対象者は松江市立湖南中学校、松江市立第四中学校の1～3年生を合わせた18名と引率教員3名でした。本学科の教員は全員、学生もかなりのメンバーが補助スタッフとして参加しました。



1日目 牛乳の成分を分析してみよう

2日目 うま味成分のかつおと昆布の合わせだし、貝類のだしを使った調理と味の比較をしよう



3日目 カフェテリア方式の献立選び、自分に合った組み合わせを選択してみよう



### 生徒のアンケートによる総合評価

SPPの講座終了後に実施した生徒のアンケート調査では、『今回の講座は面白かったか』という質問に対して、全員が面白かったと回答していました。また、『今回の講座を受けて「科学技術」や「理科・数学」に興味・関心を持ったか』という質問に対しては、82%の生徒が興味・関心を持ったと回答しており、『今回のような講座があったら、参加したいと思うか』という質問に対しては、94%の生徒が参加したいと回答していました。感想欄をみても、味覚の測定では、「だし汁の有無でとても味が変わることが印象に残った」、「自分の味覚についてくわしく知ることができた」など、カフェテリア方式の献立選びでは、「日ごろ食べている野菜の量が足りていないことが分かった」、「主食の量が少し多く感じたが、自分に必要な量がよくわかった」などが挙がっており、身近な食の科学講座を体験して、多くの気づきがあり印象深かったことが伺えました。

さらに、本学科の教員や学生にとっても、中学校の生徒さん達と触れ合ったり、様子を知ることができたりの貴重な体験になりました。

## 総合文化学科の取り組み —観光フィールドトリップ—

観光フィールドトリップは、総合文化学科英語文化系の学生が、外国からの旅行者に県内の観光スポットを英語で案内するという設定で実施する旅行です。平成25年度は、島根大学の留学生と研究生に参加して頂き、一泊二日で雲南市に行きました。



### 参加学生の声

(総合文化学科・英語文化系1年) 石川恵里香、小林えり

一日目はまず、スサノオノミコトが稲田姫と結ばれ、新居を建てたと言われる日本初之宮の須我神社へ。その新居である「奥宮(おくのみや)」があったという八雲山にみんなで登り、夫婦岩まで行きました。良縁のパワースポットということで、しっかりお願いしました。その後、バスで竜頭が滝に行きました。森の中の滝は、近くで見ると凄い迫力でした。森林浴と滝、自然の中で気分も最高でした。



次に行ったのは「鉄の歴史博物館」です。私たちが事前授業で勉強した「たたら製鉄」について、英語でゲストに一つ一つ説明して回りました。なかなか正確に伝えるのは難しかったですが、分かってもらえた時の喜びは大きかったです(小林)。

夜は交流タイムでした。ゲストの出身国の文化や、日常生活等、ゲームを通して楽しく学びました。世界の文化に触れただけでなく、英語とジェスチャーで分かりあうコミュニケーション体験にもなりました。二日目は、鬼の舌震という渓谷を訪れました。自然の中を、多少歩きづらい所もありましたが、“Are you ok?”など、簡単な言葉を互いにかけて合いながら楽しく散策しました。

私は兵庫県出身です。今回、国境を越えて様々な国の方と交流できたこと、そして、島根の観光名所を巡ったことなど、新しい体験ばかりで、私にとってとても魅力的な観光フィールドトリップになりました(石川)。



# 公開講座

## 「健康栄養講座：島根の食と健康」

健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子

島根県は、全国に先駆けて高齢化が進んでおり、健康で明るく生きがいをもって生活できる社会の実現を積極的に図っていく必要があります。この講座では、島根県における健康長寿日本一を目指した取り組みや、加齢と老化に対応するために健康寿命を獲得する方法、そして、全国でも糖尿病有病率の高い島根県における糖尿病予防のための食材や、島根県で開発・利用されている機能性食品について紹介しました。調理実習では、実際に島根県内の食材を利用して、ご家庭でも手軽に作れる、美味しくかつ機能性に富んだメニューを紹介しました。

「毎年この講座を受講しているうちに徐々に健康状態が良くなった」「講座を聴いて健康に気を付けたいと強く思った」「家に帰っても島根県の食材を意識して料理をしたい」など、嬉しいご意見ご感想を数多くいただきました。健康栄養講座は、地域の皆様の要望に応え、平成26年度も引き続き開講する予定です。



## 「子育て・孫育て世代のための子ども理解講座」

保育学科 講師 矢島毅昌

この講座の目的は、子育て・孫育ての実用的な知識や技術を学ぶことではなく（そもそも、講師は自分の子育て・孫育てを経験したことはありませんので…）、子育て・孫育ての当事者とは少し異なる視点から子ども理解を深めていくことです。第1回「子どもを育むコミュニケーション」では、子どものコミュニケーション能力の低下をめぐむ問題について、コミュニケーションは協働で達成されるものであり、個人の能力の高低の問題ではないこと等を紹介しました。第2回「子ども向けの文化財」では、文化財の善し悪しの多様性や、新たなメディアの悪影響への不安に感わされないことの大切さ等を紹介しました。第3回「子どもをとりまく社会現象」では、「子育てが困難な社会」という現象を、「正しい」子育て法の問題点や、「子育てもそれ以外もパーフェクトな親」を理想とする価値観の危険性等の視点から紹介しました。

また、各回のアンケートには受講者からの重要な問題提起も多く見られましたので、講座内で紹介しました。幅広い年代の経験からも子ども理解を深められる講座になったのではないのでしょうか。



## 「文化資源探求講座：出雲神話をおるく」

総合文化学科 教授 小泉 凡

学内の座学ではなく、外に出て、山陰の文化資源を五感で観察、探求しようという趣旨で、平成24年度から実施しています。24年度は、おもに出雲西部の『古事記』『出雲国風土記』の記述に関わるスポットを訪ね歩きました。

25年度も多数の申し込みをいただき、計51名の参加者は10月14日（祝日）、3台の小型バスに分乗して、安来市荒島地区の王陵の丘周辺の古墳・墳墓群、清水寺、語臣猪麻呂（かたりのおみいまる）の伝承地、黄泉比良坂、揖夜（いや）神社、阿太加夜（あだかや）神社など、今回は主として出雲東部の史跡や出雲神話ゆかりの地を歩きました。NPO法人出雲学研究所会員で元山陰中央新報社論説委員の岡部康幸氏と小泉が講師として同行し、さらに現地では専門家からご説明をいただきました。

幸い好天に恵まれ、エクスカージョンとしても楽しい思い出をつくっていただけたように思います。神話の伝承地がごく身近にある出雲。その文化資源の豊かさを再認識できる一日でした。地域の歴史や文化を体感できる講座として、ぜひ今後も継続していきたいと考えています。



# 新任教職員紹介



総合文化学科 准教授  
**工藤 泰子**

平成25年4月、総合文化学科に観光学の担当教員として着任しました。工藤泰子と申します。60年ぶりの出雲大社正遷宮という、島根の観光にとって重要な年に着任できたことをとても嬉しく思います。

専門は近代観光史で、新聞記事やガイドブック、行政文書などを用いて、観光都市や観光行政の変遷を明らかにし、現代に生かす工夫を研究しています。本学では観光やまちづくりに関する科目を担当しています。

出身は、新撰組近藤勇ゆかりの千葉県流山市です。こちらに来るまでは京都の女子大に勤めていました。私にとって島根は未知の世界でしたが、こちらへ来て最も印象的だったのは、郷土愛の強い人が非常に多いことです。故郷のまちづくりに熱心に取り組む方が大勢います。また、「将来、地元のために何かしたい」という意識の高い学生さんが多いことにも驚かされました。これからも学生の皆さんと一緒に学び、島根の魅力を体感していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



教務学生課 課長 **古満 繁**

平成25年4月、教務学生課長に就任いたしました。私は松江市の出身で、幼少時代に乃木福富の旧校舎に出かけた思い出や、本学卒業生の知人も多いことから、本学とのご縁を感じています。島根県庁からの派遣であり学校職場は初めてですが、これまでの経験を生かし、今後の発展に努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



管理課 企画員 **坂本 孝良**

平成25年4月に事務室管理課に着任しました坂本と申します。主に予算を担当しています。よろしくお願いいたします。

管理課は、管理棟入口正面の部屋にあります。学生の皆さんは、本学からのメールが携帯電話に転送されない時、授業料に関する相談、施設利用の申し込み、クラブ助成に関する手続き、自家用車等で通学する時など気軽にお越しください。



教務学生課 主事 **岡田 あづみ**

私は、平成25年4月に浜田キャンパスから松江キャンパスへ異動してきました。浜田では、主に先生たちの研究費に関する仕事や公開講座などを担当していましたが、松江では、入試や奨学金など学生に関する仕事を担当しています。

これまでとは大きく異なる仕事内容で、はじめは戸惑うことも多かったですが、周りのみなさんの助けにより、少しずつ、仕事にも慣れてきました。

まだまだ力不足なことも多く、毎日が勉強という感じですが、しっかり学んで早く一人前になりたいと思います。



図書館 嘱託司書 **安達 美咲**

私の長所は人見知りせず、誰とでもすぐに仲良くなれるところと、一度始めたことは必ず最後までやり遂げるところだと思っています。

まだまだ経験不足で至らない点は多くあるとは思いますが、役に立てるように頑張りたいと思っておりますので、これからよろしくお願いいたします。

# SCHEDULE

平成26年度年間行事予定

\*予定変更の可能性もありますので事前にご確認ください。



## CAMPUS LIFE

### 海外語学研修

山根沙千 (総合文化学科1年)

ワシントン州エレンズバーグにあるセントラルワシントン大学での研修は、2週間という短い期間でしたが、マリナーズ観戦やヤキマ川下りなど、実際に体験してこそ感動や楽しさを味わうことができました。英語に関しては、授業だけでなく、スーパーや洋服屋での買い物、アメリカの学生との交流など、生活の中で使うことによって、自分から積極的に英語で話しかける姿勢が身につきました。

私は外国の衣食住にとっても興味を持っています。見る物聞く物全てが新鮮でしたが、一番心に残っているのはエレンズバーグの町並みです。日本と比べ道路沿いの木々の背が高く、家は前庭付き木造平屋建ての家がほとんどで、非常に「開放的」でした。訪問した先生方のお宅も、家の間取りやインテリア、家族写真など、ドラマで見るアメリカの家そのものでした。

また、エレンズバーグの町で出会った人たちは、全く知らない私たちにも気軽に挨拶をしてくれました。課題で町の探検をした時、私たちが困っていると、真剣に話を聞いて一緒に考えてくれたりもしました。とてもフレンドリーで温かく、彼らの親切がとても印象に残っています。



### サークル・クラブ紹介

#### ・ダンス部

(健康栄養学科2年) 榎本愛美

私たちSTD(Smile Tempt Dance)ダンスサークルは2年生9人、1年生19人で活動しています。Smile Tempt Danceとは、笑顔とダンスで誘惑するという意味が込められています。学園祭でのダンス披露はもちろんのこと、定期的な学内で行うダンス披露や、他大学のダンスサークルとの交流、学外イベントへの参加など様々な活動を行っています。私たちには指導者がいないため、自分たちで工夫して練習したり、他大学との交流で出会った仲間たちから刺激を受けたりして、よりレベルの高いダンスを目指して日々練習に励んでいます。ほとんどがダンス未経験者ですが、私たちなりに一生懸命練習し、楽しいステージを作っていきたいと思いますので、これからの活躍に期待していただけると嬉しいです。



#### ・日本舞踊サークル

(総合文化学科1年) 三島悠希

私たち日本舞踊サークルは、毎週火曜日に作法室で練習をしています。日本舞踊という堅苦しいイメージや、難しいイメージがあると思いますが、みんな仲良く楽しく活動しています。今年度は出雲伝統芸能フェスティバルにおいて、出雲大社の神楽殿で中村獅童さんの前座として踊らせていただきました。他にも松江水燈路や清水寺等に呼んでいただき、外部での活動が多い一年となりました。



皆、初心者ですが、先生をお招きし、着付けや礼を一からきちんと習っています。踊りが好き、着物が好き、ちょっと興味があるという方、気軽に遊びに来てください。お待ちしております。

### 飛鳥祭 (大学祭)



**島根県立大学短期大学部**  
松江キャンパス

〒690-0044 島根県松江市浜乃木七丁目24番2号

TEL 0852-26-5525 FAX 0852-21-8150

発行：島根県立大学短期大学部松江キャンパス メディア・図書館委員会  
発行日：2014年3月18日